

複式簿記の導入・固定資産台帳の整備について

- ◎ 複式簿記を導入する意義としては、以下の2点が考えられるのではないかと。
 - ① 帳簿体系を維持し、貸借対照表と固定資産台帳を相互に照合させることで検証が可能となり、より正確な財務書類の作成に寄与する。
 - ② 取引ごとに仕訳を行うことで、事業別・施設別など、より細かい単位でフルコスト情報での分析が可能となる。

- ◎ 複式仕訳の程度としては、東京都方式のように日々複式仕訳を行う方式が望ましいが、基準モデルで採用している団体の多い現行の財務会計システムのデータを期末一括で変換して複式仕訳のデータを生成する手法も許容されるのではないかと。

また、現行の財務会計システムから得られる集計データを活用することにより財務書類を作成する手法についてどのように評価するか。

- ◎ 固定資産台帳については、その整備を推進することとする。併せて、団体によってその中身の精度に差があることから、その精緻化について引き続き議論することとする。